
『託されたモノ』スピンオフ～第3次世界大戦～

たくみ226

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『託されたモノ』 スピンオフ 第3次世界大戦

【Nコード】

N6025B

【作者名】

たくみ226

【あらすじ】

この小説は、朧月先生の名作『託されたモノ』 <http://nocode.syosetu.com/n8706a> の公式スピンオフ作品です。『託されたモノ』15・未来語り―それぞれの現在―の文中にある『第3次世界大戦』の僕の妄想を書いています。この話は新一・蘭の工藤夫婦に重点を置いたもの、桜花ちゃん・幼稚園に視点を置いたもの、さらには政治・軍事系の話までさまざまな視点で書いた小説となっています。工藤家の日常と、それを変える事となる戦争、そして、戦争によって愛娘を失う悲しみを描いていく

話です。

この小説は原作の状況を利用した作品であるために、原作者の意図をと関係ないことを書いております。そのことをご理解ください。

プロローグ その日の朝・・・

この話は、江戸川コナンが工藤新一に戻った後の話となる。

X月A日 東京都米花市 朝

世界有数の先進国でありながら、戦争や紛争に1世紀近く関係してこなかった日本。

日本以外の国では、小規模なものも含んで毎日どこかで紛争やテロが発生し、誰かが殺されていく。

そして、それがなかったことに時間だけは刻々と過ぎていく。

何気ない時間を日本中、いや、世界中の人間が過ごしていた。

この後、地球全体、この世の破滅を迎えることを知る由もなく・・・

『第3次世界大戦』と後に略称されるが、歴史上あったどの大きな戦いとスケールが違う、まるで映画でしか見たことのないような状況が起こる。

プロローグ その日の朝・・・（後書き）

こんにちは、たくみ226です。

『託されたモノ』にとても嵌った人間の一人です。『託されたモノ』を見て、その中であつた『第3次世界大戦』がものすごく気になつたということで、朧月先生に許可を取つてスピノフを作つた次第です。

正直言つて『託されたモノ』の雰囲気をぶち壊さないように書いていくつもりではありますが、ある程度のずれと言いますが、違いは出てきます。そこに関してはあんまり怒らないでください。

この話は、まず全体編、次に新一・蘭の工藤夫婦に重点を置いたものの、桜花ちゃん・幼稚園に視点を置いたものをミックスしながら話を進め、10〜20話で終わる予定で書いています。

新一が蘭と桜花ちゃんを送り出しているシーン・・・うまく書けているでしょうか？是非是非、感想・評価を書いてください。今後の小説を書く際の課題・励みになります。

最後になりましたが、最後まで見ていただければ、作者としてこれだけ嬉しいことはありません。どうか、この小説を最後まで見て・読んでいただけるような話にしますのでよろしく願います。

第1話・最後の日常

東京・米花市にある工藤邸。今日も、いつも通りの平日を迎えていた。

この家の主の工藤新一。彼は、人間史上ありえない経験をした1人であつた。

彼が17歳のころ、『世界で最も恐ろしい組織』^{マフィア}と全世界の治安関係者に言わしめたその組織の餌食になつた。その結果、彼の身体は幼児化して、小学生の『江戸川コナン』として生活することになつてしまつた。

江戸川コナンとしての生活の中で、その世界最強の犯罪者集団である通称『黒の組織』を探り、彼らと日本警察・FBI・CIA…と多くの人間とともに戦つた。結果、『黒の組織』を壊滅に導き、高校生の工藤新一に元通りに戻つた稀な人生を送つた人間である。

壊滅したその組織は、政財界でも多くの逮捕者を生み、日本や欧米の政治・金融業界にも混乱は及んだ。いや、むしろ欧米のほうに大きな影響が及んでいた。そして壊滅から30年経つた今も全世界の中枢では混乱が起きている。

この事件の後、彼は幼馴染の毛利蘭と結婚し、彼女との間に一人の女の子を授かつた。

名前は『工藤桜花』・・・彼女の事は、父親の工藤新一曰く、『妻^{らん}にそっくり』だ。

玄関前でドアを開けようとしている桜花と、母親で新一の妻である蘭が、目の前にいる新一に元気良く言った。
「行ってきまゝす。」

そういうと、新一はすぐに答えた。

「行っでらっしゃい。気をつけるよ!」

新一は夢にも思わなかっただろう。まさか、この後にあんな事が起きようとは・・・

そして、これが愛娘との最後の会話になるうとは・・・

第2話・AM9:00

焼肉パーティーの前日だったこともあり、新一はそれ関連の道具を準備していた。

「ええと・・・」

新一と蘭は結婚後、米花市内のマンションに新居を構えようとしていた。

しかし、新一の実父である優作が「有希子とこれまで通り、国内や海外に存在する別荘等で生活することに変わりは無い。だから、結婚祝いにこの家をあげよう。」といって、新一は実家を譲ってもらい蘭とともに暮らすことになった。

「つくづく思うが、うちの家ってやっぱり広いなあ。よく考えたら蘭の実家にコナン時代住んでいたけど、広さは大違いだぜ・・・」
新一の家は立派な洋館で2階建て10部屋近くある。当然収納するスペースも各部屋に存在していることから、搜索範囲は膨大である。部屋の中は整理整頓されすっきりしているが、特定のものを探すときにはどの部屋にいているかを覚えていないとすべての部屋を探さなければならなかったため、途方も無い時間がかかる。

10分後・・・

「はあ。やっと見つけた。」

新一はそう言うと、収納から焼肉パーティーに使う道具一式を取り出して、庭にもって行きそれらを洗った。

それが終わると、今度は自身が経営している探偵事務所の書類整理をしていた。

探偵事務所といっても、自宅1階の2部屋を改装し、事務所用の入り口を設け、中は執務スペースと応接スペースを設けている。

新一の部屋の隣に設置され、彼の部屋には、父の小説も含め世界の推理小説家の小説がすべてと言っても過言で無いほどの本が存在する。

「仕事をセーブしろって宮野や蘭に言われても、事件が起こるとやっぱりそこに行きたいのは探偵の性^{さが}だな・・・」

新一は、捜査一課長である目暮警視から頼まれた捜査の資料を読んだり、終わった事件のものについては整理したりしながらつぶやいた。

ついでに、組織壊滅後に、警察の中で定期の人事異動以外では過去最大となる人事異動があった。

壊滅後にも不審な事件が相次いでいたことより、警視庁公安部の捜査が極秘に行われた。

その結果、組織に関係している可能性のある警視庁の警察官が数十名、警察庁・警視庁幹部にも、十数人存在し、警察庁のことについては政治家である国家公安委員長の、警視庁については白馬警視總監の命で公安部のごく一部の人間が捜査し、結果的に警察官の更迭や逮捕が過去最大の規模で実施された。

そのため、幹部ポストに空席が目立つ事態となり、論功行賞的な意味合いも含まれた昇進や人事異動が実施された。

まず、松本警視は警視正になり警備部長へ、目暮警部は、警視に昇進し捜査一課長へ、白鳥警部は、キャリア組ということもあり通常の昇進と合わせて2階級昇進し、警視正になり警察庁へ戻った。佐藤警部補は警部に昇進した。しかし高木・千葉両巡査部長はそのままであった。この3人については、所属は変わらず捜査一課強行犯係所属である。

そのあとTVをつけていた。

TVを見ると、平日常ということもあり、ワイドショーをしていた。そこで新一には懐かしいというより、背筋が凍るような、いや、この世で一番憎む男の公判の判決のレポート流されていた。

彼は最後まで黙秘を続けており、自分がした行為については何もしやべらなかった。

そのニュースの最後には、15秒間映像で、法廷の資料映像と新一が裁判所で行った会見が関連映像として流されていた。

「この事件に関しては、当時高校生探偵であった工藤新一氏が受けた行為について証言しました。また、工藤氏とともに出廷した女性当時18歳（＝灰原）が証言した際、被告人が女性に対し組織のメンバーであったことを証言したため、この女性も逮捕されました。しかし、裁判では法曹界では有名の妃英理弁護士率いる弁護団により無罪となることがありました。」

新一が『黒の組織』と呼んでいたその組織は壊滅した。新一は組織に対して絶対に復讐しないといけないと思っていた。

しかし、日本は法治国家である。私刑は絶対に許されない。それは彼が一番わかっていることだった。

犯罪者は必ず捜査機関によって逮捕され、刑事訴訟法に則って裁判を受けなければならない。このなかで、一番の被害者として証言に立ったのは工藤新一彼である。

新一は、組織が行ったことを事細かに裁判官に説明した。『体が縮んで小学生になった』なんて誰も信じない。殺人や放火等々の罪状でどう考えても死刑になることはわかっていたが、そこに彼がアポトキシン4869によって受けた行為を検察は『傷害罪』として問うことにした。しかし、これに関しては灰原が実際にそれをつくり証明して見せた。

組織の首謀者・ジン・ウォツカ等々みな死刑判決が宣告されたが、7年たつて彼らの判決を出した法廷は地方裁判所。まだ彼らの刑が執行されるのは先の話となる。

ついでに、オ・ム事件の教祖や幹部は今でも（2010年現在）全員の刑が執行されているわけではない。つまり、社会に重大な影響を与える裁判は諸事情があり長期化する傾向にある。

また、殺人等の凶悪犯罪が罪状として挙げられているため、2009年に導入された裁判員裁判の対象になることは言うまでもない。しかし、組織の幹部の裁判には裁判員が現れることはなかった。裁判員法3条により、裁判員に危害が加えられる恐れがある場合など、いくつかの条件に該当した場合、裁判員なしで裁判を行うことができる規定があるためだ。

実際に、組織壊滅後、警察や司法関係者の身边では放火、殺人（暗殺）、暗殺未遂が相次ぎ、捜査や裁判に支障が出ていた。

第2話・AM9:00(後書き)

こんにちは。

完全復帰というわけではありませんが、この作品から出しているかな?と思います。

コメントお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6025b/>

『託されたモノ』スピンオフ～第3次世界大戦～

2010年10月13日17時22分発行